

「これからの生き方、働き方を考える」

澁澤 寿一

環境NGOで学んだこと

60年前、天井は1200円、掛け蕎麦は40円

今は、天井は500円、掛け蕎麦は400円



コールド・チェーンの発達

発展途上国は、豊かに

(子供は学校に、病人は病院へ、安全な井戸水)

日本では、1コインの安い天井

(これを、WIN-WINと言って良いのか?)



1. 貧困の根絶
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
6. 安全な水と衛生的な環境を、すべての人に
8. 働き甲斐も経済成長も
10. 人や国の不平等をなくそう



13. **森の破壊**による、温暖化の促進、

台風、高潮など自然災害の被害の拡大

14. **海洋生物**の多様性の減少、生物量の減少、薬品による汚染

15. 汽水域、陸域**生態系**の破壊・・・貨幣経済による**コミュニティ**の崩壊

地球環境の破壊(子供たちの未来の破壊)

どこで、何を、だれが間違えたのか？

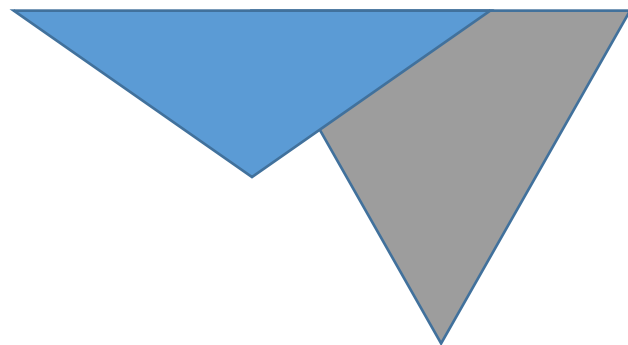
- **日本人**がエビを食べなかったら、
エクアドルの子供は学校に行けない。
エクアドルの病人は病院に行けない。
- **エクアドル人**がマングローブを切らなかったら、
日本の天井の値段は、今の10倍に。
そして、エクアドルの子供も、病人も・・・
- **エビ業者**が世界からエビを買わなかったら、
日本人も、エクアドル人も、商社も、世界経済も・・・

これまでの60年

持続可能な未来

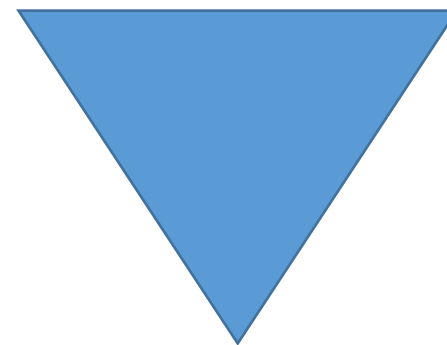
経済

社会



経済

社会



環境

環境

「お客様の望むものを・・・」だけでは済まされない経済

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



「誰も置き去りにしない」

誰もとは、人も、自然も、そして子孫も、

インクルーシブな社会の実現

グローバル経済や競争社会で可能か？

豊かになった国「日本」は、

幸福になったのか !?

無縁社会の本質

「無縁社会」 = 関係性の遮断 = 「私らしさ」の喪失

「無関心」「無視」「面倒くさい」

これは愛の枯渇した状態

「愛」の反対は、「憎しみ」ではなく「無関心」

(マザー・テレサ)

「愛」のきっかけは「興味を持つ」こと！

持続可能な社会をつくるには、

人と人、人と自然、世代と世代が、つながること

→ つながるには、お互いが関心と共感を持ち合う社会

(関係性の中にある幸せな社会、コミュニティで生きる)

共感の範囲 (動物学者 山際寿一、京大前総長)

類人猿の中で「**共感**」を持つのは、**人とゴリラ**・・・食卓を囲み、分け合って食べる

ゴリラの共感の範囲・・・15頭(サッカー11名、ラグビー15名、**肉体**の共鳴集団)

会社経営の共感の範囲・・・150人(**言語**を持つ人間、社員もその家族も一家)

地域の共感の範囲・・・1000-3000人(小学校区一中学校区、**言語**を持つ人間が、**システム**を持つと、
共感できる)

共感の薄れる現代社会・・・食卓を囲まない家族、SNSの噂話でつながるPTA、

祭りの消滅、地域コミュニティーの崩壊→**サル**化する**人類**

地域は共感の範囲

人間にとっての「**幸せ**」とは

94歳の認知症の母が、見つけた「**幸せ**」。

共に食べる、役割りを持つ、

シェアする、そして**共感**する。

(ケア・プログラムでは見つけられなかった**幸せ**)

皆がさがす、幸せな社会とは何なのか

1. **有名**になること。TV・雑誌に取り上げられること。
2. 人がたくさん集まること。施設や工場ができること。
3. お金がたくさん集まる。たくさん**儲かる**こと。
(一般的な、地方創生、地域活性化の目標)
4. 地域の人を皆知っている。相互に**支え合う**。助け合う。
5. 暮らしを**つくる**、仕事がある。
6. 地域で**友達**がいる。集える。健康でいれて、移動が自由。
7. 老人になっても食事ができ、運動ができ、**見守られて**いる。

(地域福祉の視点、高齢者の視点)

8. 地域で皆が食べていける

(食糧・エネルギー・福祉の生産・交換・贈与・連携・購入)

9. 子供たちが地元に戻ってくる。若い世代が育つ、住みつく。

10. 地域で生きる誇りを持てる。

11. 死ぬまでここで生きていきたいと思う。

12. 農作業・山仕事ができる(精神的、肉体的、最善の健康法)

13. 神々・祖霊・産土・・・と、いつも一緒と感じられる。

14. 自分が人の役に立っていると思える(ex.産直、贈与の広場)

(地域住民の視点・個人の視点)

現代社会の問題

農山村(自然資本の世界)の問題

- ・過疎化
- ・高齢化・少子化
- ・都市との所得格差
- ・教育環境
- ・医療
- ・働く場
- ・水と食料の自給
- ・バイオマス・水力・風力・太陽

都市(お金の世界)の問題

- ・空洞化(巨大団地)
- ・退職高齢者の役割・居場所
- ・食の安全・安心(確保)
- ・ストレス・不安・落ちこぼれ
- ・健康
- ・若者の雇用・働く場
- ・生存の基盤は海外依存
- ・エネルギーの海外依存

人口減の社会、AI・IOT社会の新しい働き方

(目指す姿)・新しいライフスタイル(価値観)の構築

- ・新しい社会のための、教育、福祉、エネルギー(経済性だけでない価値)

労働の**意味**の変化(戦後70年～現在)

「 **GDP**を向上させるための労働 」

(経済的価値のための労働)

経済的価値を重視して生きることが**幸せ**、という価値観。

戦後、復興のための経済を建て直し、生産性を上げることが不可避。



専業主婦は労働ではない、育児も、介護も、重要な労働とは言えない。

年収は高い方が幸せ。どの会社に勤めているか、が社会的ステイタス。

大企業の方が中小企業より大切で社会的価値が大きい。

費用対効果で表せないものは価値ではない・・・ 高度経済成長期の論理

(現在～これからの20年)
「 **生きる意味を問う労働** 」
(**meaning of life**)

地に足が付き、コミュニティの中で**必要とされ**、

自然の中で、その**恵み**を得ながら、**必要最低限のモノ**を持つ暮らし。

多くの**人**と、**世代**がつながっている社会を実現する。 そのためには、

お金より**共感**や**協働**。 共感できなくても、**共生**(自治)。

Do より **Be** が大切。 働くことは、生きること。

お互いが持つ**弱み**を許容し、そこから社会づくりを考える・・・

人生は、「**職業選択**」ではなく「**生き方づくり**」

戸田友介という生き方



1981年12月9日生まれ、奥さんと子供3人の5人暮らし

年収 350万円、支出 250万円

(家賃36万円、水光熱費15万円、年金保険22万円、燃料費24万円、通信費24万円、貯金50万円・・・)

役職 : 地域会議副会長、観光協会理事、とよた都市農山村交流ネットワーク監事、消防団ラッパ隊、自治区広報部長、コミュニティ会議委員、夏祭り実行副委員長、梅祭り実行副委員長、木の駅プロジェクト事務局、薪作り研究会事務局、プレーパークリーダー、アグロエルタ事務局、耕ライフアドバイザー、古民家運営委員、交流館運営委員、ご縁市実行委員、旭若者会、やさしい美術委員会、豊田市都市農山村交流会議委員、おいでんさんそんセンター運営委員、地域スモールビジネス研究会、山村担い手作り委員、豊田市中心市街地再開発有識者委員、NPO副理事長、暮らしカフェ実行委員長、地区混声合唱団団長、おいでんさんそんず、米っ子クラブ、餅っ子クラブ、豆っ子クラブ、山っ子クラブ、洋ラン園管理者、果樹園管理者、新聞配達、薪配達

(35の役職、紫は稼ぎあり14)

米、味噌、醤油、豆腐、野菜は自給

大きくしたり、多くしたりすると、儲かりそうな「稼ぎ話」がある時は、出来る限り、自分の取り分と、かける時間を少なくするようにしながら、分け合うか、手放す。

若干の余裕をおき、頼まれごとが出来るような状態にしておく。

儲ける事を目指すことをやめた、

一つだけやることをやめた、

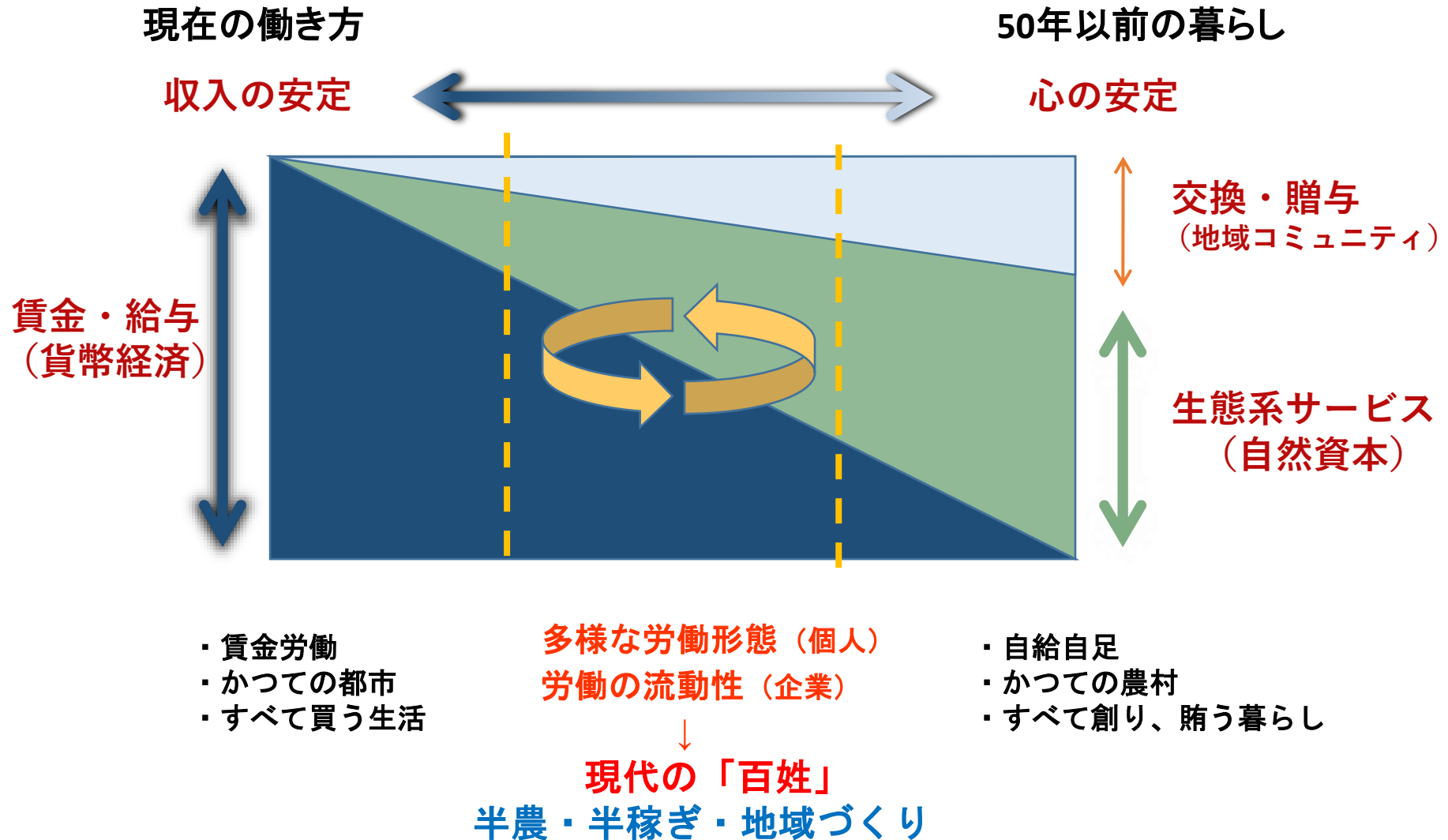
仕事にヒトを合わせる事をやめた。

地域のいろいろな役割を担いつつ、地域と自らの未来を重ねながら、

次世代につづく、働き方、生き方の模索・実験を行っている。

(戸田友介)

働き方の変化



稼ぎ(職業=お金)が人生をつくる、

or

なりわい(生き方=人生)に合わせた職業を持つ